

「富士山と私」

～晴れてよし 曇りてもよし 富士の山～

静岡図書館友の会 副代表 山下 多津美

私は生まれも育ちも静岡市で、特に富士山に関心があるわけではありませんでした。ところが約 8 年前に、あることをきっかけに突然のめり込むようになりました。

仕事を完全にリタイアしたのは 2015 年春ですが、その直前に夫婦で山梨県山中湖近くに一泊したことがありました。ホテルの方から「山中湖畔からダイヤモンド富士が撮れますよ」と教えていただき、翌日実行したところ思いのほか上手く撮れ、それ以来富士山撮影にどっぷりつかってしまい、現在に至っています。いわゆる「富士の病（ふじのやまい）」に罹患して、約8年後の回復状況は?と言えば、「病膏肓に入り」てより進行している様子、どうやら当分は治癒の見込みはなさそうです。

副題の「晴れてよし 曇りてもよし 富士の山」は明治の偉人、山岡鉄舟の言葉ですが、まだ後があり、「もとの姿は 変わらざりけり」と続きます。月のうち約半分くらいは撮影に出かけていると思いますが、富士山が見えず撮影せずに帰る、いわゆる「撃沈」するケースも未だに結構多いのですが、そのときはこの言葉を思い出して「今日は単についていなかっただけだ!」と納得するように努めています。又、この言葉は人生訓としても大切にしています。目先のことに一喜一憂せず、ことの本質を見極めることができるようになりたいと思っていますが、なかなか難しいものです。

富士山は、見ているだけで心が癒やされるような気がします。毎日見ても飽きると云うことはありません。その時その時で富士山の表情は異なります。富



士山撮影に目覚めてから、季節の移ろいを肌で感じるようになりました。又、当然ですが富士山周辺の地域のことにも詳しくなってきました。富士山にのめり込むようになってから、性格的にはお世辞にも社交的とは言えない私が初対面の方と気軽に会話できるようになって来たことに、自分でもびっくりしている次第です。

「富士山を撮る」と言っても私の場合、「富士山を取り巻く様々な美しい風景や地域の様子」を追い求めている気がしています。富士山を取り巻く環境は、種々雑多で多岐にわたります。思いつくままに挙げてみても、「朝焼け、雲海、草木の花、新緑、紅・黄葉、霧氷、雪と氷、地域のイベント・行事……」。それぞれに旬の時期があり、適切にそれを捉えることは難しいです。自然を相手にしているので、自分ではどうすることもできない部分が多く、丁度良い条件に巡り会えたときはこの上なくうれしくなります。

人生を四季に例えれば、「青春、朱夏、白秋、玄冬」のうちの「玄冬」に踏み入っている年齢になりましたが、「風の吹くまま、気の向くままに、糸の切れた奴胤」の如く感性の赴くままに富士山周辺を漂って、今しばらくは「富士の病（ふじのやまい）」をどっぷり満喫したいと思っています。





3月4日、もくせい会館で2023年度静岡図書館友の会総会、記念講演会を開催しました。コロナウィルスの感染者数もようやく収まりつつあり、感染対策を取りながらほぼ通常通りの会を開くことができました。会員のみなさまのご支援とご協力に感謝申し上げます。

【総会】

会員42名の参加のもと行われました。冒頭、田中代表の挨拶では、長年当会副代表を務め、昨年90歳で逝去された山田健司氏への感謝が述べられました。また昨年度当会へ多額の寄付があったことの報告もありました。静岡市立中央図書館勝見館長からのご挨拶では、昨秋の台風水害について、特に被害が大きかった南部図書館の状況のご報告とともに、今後のみなさまからの変わらぬご支援・ご協力をお願いをいただきました。



本年は、4年ぶりに議長を立てての議事進行。昨年度の事業報告、決算報告、また今年度の事業計画案と予算案がそれぞれ承認されました。昨年度は、図書館交流会のオンライン開催(会報27号に報告掲載)、図書館休館にともなう電子書籍の需要の高まりに注目し「公共図書館と電子書籍」について学習会を開催、市立中央図書館と共催のしずとしょフェスタは、『あいうえおそばうとしょかんで』をテーマに2021年度から1年延期して実施など、長引くコロナ禍のなかでも柔軟に各事業が行われました。「新県立中央図書館」建設に関しては「新たな静岡県立図書館を望む会」と連名で資料費充実等の要望書を県教育長に提出しました。(各報告ページ参照) 2023年度事業計画では、2月19日に開催された図書館交流会のほか、しずとしょフェスタの市立中央図書館との共催、年2回の会報発行、ホームページ更新、市立図書館への図書・雑誌の寄贈などが予定されています。最後に、役員改選案が承認され、新たに4名が

運営委員、監事として加わり、代表からの役員紹介を経て無事本年度総会は閉会しました。

【記念講演会】

松本猛氏を迎え、「いわさきちひろ 母として 画家として ～平和への願い」をテーマにご講演いただきました。絵本とは何か、という話から始まり、多くの作品を紹介されながら、少女像にはちひろ



さん自身が投影されていることや、猛氏がモデルとして登場していることも少なくないこと、作品が今なお支持されているのは、子どもたちが生命力溢れ、その内面までもが描かれ、見るものの想像力が広がるゆえ等、その魅力が語られました。また、ちひろさんの作品は、柔らかで透明感あふれる色彩の印象がありますが、実は確かなデッサン力や日本画、書の技術に裏付けされていることを、線画作品を通して紹介され、参加者は興味深く耳を傾けました。

そして、いわさきちひろさんが生涯子どもを描き続けたのは、自身の戦争体験があり、何より子どもは命の象徴という思いがあったからこそ、という講師の言葉は印象深く、心に残りました。来年没後50年を迎えますが、時を経ても色褪せない魅力の背景には、その作品に込められた画家の平和への願いがあることを、知ることができました。

一般の方の参加も叶い、今年度の記念講演会には約80名が来場しました。以前の生活が少しずつ戻ってきていることを実感しますが、やはり、何よりも子どもたちが生き生きと安心して暮らせる平和な社会であってほしいと改めて願う時間となりました。



第24回 静岡県図書館交流会 報告



2月19日、静岡県立中央図書館にて実施された図書館交流会。昨年はリモート形式での実施でしたが、今年は無事に現地に集合しての開催となりました。

県立中央図書館の柴館長に開会の挨拶をいただき、第1部は県内図書館から活動のご報告。

まずはあざれあ図書室の菊川真紀子氏から、男女共同参画やジェンダーの視点について理解を深める取り組みを紹介いただきました。同図書室では、LGBTQ※1やフェミニズムなどのジェンダーにまつわるトピックスに特化した書架を設置されているとのこと。また最近はこちらのテーマを扱った絵本も増えているとのこと。同図書室によるブックリストは私の職場で大いに活用させていただいていますが、一度現地にも伺ってみたいと思いました。

続いて、静岡市立中央図書館の田中邦子氏より同館のリニューアルについてのお話。令和2年10月から約10か月の休館期間を設け、大規模な施設改修を実施したとのこと。手探りでコロナ対応に苦心していた時期に館内工事が重なりさぞかし大変だったことと思いますが、プレハブの臨時窓口の設置や同じく臨時の事務スペースを書庫に確保するなど、大変な状況を工夫して乗り越える姿勢を大いに参考にしたいと思いました。

最後の報告は、牧之原市立図書館の水野秀信氏。旧図書館をリニューアルする形で令和3年にオープンした図書交流館「いこっと」についてお話いただきました。かつてはホームセンターの建物だった複合施設内で民間の施設と共存する「いこっと」は、旧図書館とは全く違う施設。新館をゼロから創るに等しい労力だったのではないかと思います。コロナ禍が落ち着き、ますます図書館ならではの交流を生み出す施設となることを願っています。

第2部は「公共図書館と電子書籍」と題して、電子図書館に係る報告を伺いました。

電子図書館導入準備中の静岡市立中央図書館からは、前出の田中氏によるご報告。電子図書館に係る静岡市内のアンケート結果（図書館をあまり使わない回答者の76%が「電子図書館なら場合によっては利用したい」と答えている）を紹介しつつ、やるのであれば電子図書館を新たな分館に位置づけられるくらいにしたい、と話されていました。

既に導入済みである館からは、県立中央図書館の杉本啓輔氏、磐田市立図書館の平野義久氏より報告いただきました。

県立図書館では高校生から社会人の利用を想定、電子図書館のため新たな資料収集方針（仕事やQOL※2の拡充など）を定め、新規利用者の開拓を狙ったとのことでした。

磐田市立図書館では郷土資料を多く電子化し、また地元の中学生が作成した絵本なども公開し多くの利用があったとのこと。

「導入したからには継続的に電子書籍の予算を確保することが必須、そのためには継続的に利用されることが必須」という意見はすべての報告に共通しているようでした。メリット・デメリットが存在する中で電子図書館サービスの利用価値を何処に見出すか、見極めていく必要があると感じました。

コロナ禍を経ても逞しくその役割を果たし続ける県内図書館の様子を、そして久しぶりにお会いした皆さんのお元気そうな様子を確認することができ、とても有意義な交流会でした。



※1 セクシュアルマイノリティー／性的少数者
※2 クオリティ・オブ・ライフ／生活の質



ほっとコーナー

「それからこびとたちは二度とやってきません
でした……」

お話の最後の部分を語ると、子どもたちから
「ええっ……」と寂しそうなため息が漏れた。

子どもたちと『こびととくつや』の物語の世界
を旅する不思議な時間だ。

“お話”とは、昔話や創作の話覚えて語る
こと。数年前から語り始めたが、今年は念願だ
った東京子ども図書館の月1回、2年間のお話講
習会を受講している。東京子ども図書館は石井
桃子さん、松岡享子さんらの家庭文庫を母体と
して設立された私設の子どもの本の図書館だ。
昨年亡くなられた名誉館長の松岡先生は子ども

めざせ！おはなしおばさん

静岡図書館友の会 運営委員 土屋 善子

の本の創作や翻訳を多く手がけてこられたが、
子どもにお話を語ることの大切さを広めること
に力を注がれた。

講座には全国から現役の司書、ボランティア
など、子どもにお話を届
けている人たちが集う。
顔を合わせることで難
しかった長い時間を過
し、あらためて人の声
を通して物語が生き生
きと立ち上がってくる瞬
間を共有できる幸せを
感じている。



静岡市の「市政出前講座」で「公共図書館と電子書籍」を学ぶ

静岡図書館友の会 運営委員 増田 曜子

新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確
認されてから3年となりました。この間、人々の
行動は大きく制約され、多くの図書館においても
休館や入館制限を余儀なくされてきました。そこ
で、各自自治体・図書館では政府のデジタル社会
推進政策などの後押しもあり、非来館型サービス
として「電子書籍」の導入が検討されています。

電子書籍は、自宅にいながら24時間いつでも
読むことができ、資料によっては文字を拡大した
り音声読み上げ機能もあるなど、利便性が高い
と言われていますが、これまで紙ベースで図書館
を利用してきた私たち利用者にとっては、予算の
確保や導入によって得られる効果、有効性につ
いて漠然とした不安がありました。そこで、静岡図
書館友の会では、静岡市の「市政出前講座」を
利用して、令和4年12月7日、静岡市立中央図

書館田中邦子副館長を講師に迎え、電子書籍に
ついて学習会を行うことにしました。

田中副館長からは、静岡市がデジタル施策を
推進するうえで検討してきた、電子書籍のメリ
ット・デメリットの検証、導入によって得られ
る効果、小中学校へのICT教育の推進支援や
今後の導入スケジュールについて説明がありま
した。また、図書館では令和4年6月にアン
ケートを実施し、3,887名から得た回答を参
考に、今後の電子書籍の選書、導入方法を
検討することにより、「新たな図書館利用者
を呼び込むことができるのではないか」と期
待を寄せられていました。

田中副館長の説明により、図書館が時流に
流されることなく利用者の利便性を優先し、
慎重かつ計画的に電子書籍の導入を検討し
ていることが理解でき、友好的で有意義な
学習会となりました。



新静岡県立図書館について静岡県教育長に要望書を提出

その1

2022年12月、当会は、「新たな静岡県立図書館を望む会」と連名で、池上重弘県教育長にお会いし資料を添付して要望書を手渡してきました。温かい雰囲気迎えられ下記3点についてお願いしました。(説明部分は要約)

1 資料充実のための、毎年1億円以上の資料費確保

- ① 県立図書館による市町立図書館への支援の必要性の増加。
- ② 市町立図書館では買いきれない専門書・高額書を求める声大きい。県立図書館の資料収集は、県内全図書館の資料構築の土台となる。
- ③ 情報の高度化・多様化により、デジタル資料・映像コレクションなど、新しい分野の資料はまず県立図書館がカバーし、紙媒体の資料費を減額・流用しない。

2 正規職員の専門職化と増員

- ① 専門書・高額書の選書や市町立図書館への支援には、高度なスキルと専門的経験が必須。
- ② 電子化時代には、かえって電子化されていない地域資料・郷土資料の収集が重要。
- ③ 県内図書館全体を組織化し、県立図書館をそのハブとする力を持った専門職集団をつくり・育てる。

3 県民の知的生産と自立を促す場となる新県立図書館の設計

- ① 利用者が資料を探しやすく学習しやすい仕様に。また、それをサポートする職員にとっての働きやすさへの配慮。
- ② 県民が等しく利用の機会を持て、遠隔地からの利用者が来やすく過ごしやすい工夫。地域資料・郷土資料の適切な保存と電子化も含めた公開。
- ③ 新たな利用者も呼び込め、繰り返し訪れたいくなる居心地よく、使いやすい施設。



新県立中央図書館ニュース

その2

静岡新聞(2023.2.11)によると、県教育委員会は2023年度の事務局の組織改編案を発表しました。新館整備本格化に向けて、社会教育課にあった新図書館整備室を1人増員して11人体制の新図書館整備課とし、新図書館は27年度開館をめざし、23年度は実施設計を予定しているということです。



図書館からこんにちは

私は、昨年4月から御幸町図書館に配属となりました。子どものころは図書館が大好きで毎週のように通っており、いつかは図書館で働きたい！との一心で司書資格まで取得したので、図書館に配属と決まったときはとても嬉しかったことを覚えています。

御幸町図書館は課題解決型図書館として開館しており、その役割の一つに「ビジネス支援サービス」があります。私は静岡県出身ではないのですが、地元ではビジネス支援サービスを行っている図書館はなかったので、どんなサービスを行っているのか分からないまま業務にあたってきました。しかし、その中身は想像していた以上に充実したものでした。

御幸町図書館では、難しい専門書から、県内ではここでしか使えない商用データベースまで、非常に高度で

ビジネス支援図書館で働いて

静岡市立御幸町図書館 主事 宮崎 海地

豊富な情報資源が利用できます。データベースについては年に数回、使い方講座も開催しています。また、同じビル内にある静岡市産学交流センターとの連携事業も行っており、同センターで行われる講座に合わせた展示や、資料の提供、機関誌やメールマガジンでの本の紹介なども行っています。

ビジネス支援サービスの担当となったことで、これまでは手に取ることがなかった本や、気にすることがなかった情報に触れる機会が多くなりました。御幸町図書館は、中心市街地にある図書館ということで、近くに住んでいる方はもちろん、仕事の合間や帰宅途中に来館される方も多くいらっしゃいます。来館してくださる皆さんから、図書館に来てよかった、知りたい情報が見つかったと言っていたいただけるように精進していきたいです。



市内図書館ニュース

静岡市立中央図書館【麻機分館】

『おいしいおかゆ』絵本原画展について

静岡市立中央図書館

【麻機分館】主査（司書）青島 貴子

おざき みゆき 【麻機出身の銅版画家：尾崎幸氏】

絵本『おいしいおかゆ』（富安陽子／著、尾崎幸／絵、フェリシモ出版 2010 年刊）の原画展を麻機分館で令和4年8月16日（火）～10月29日（土）に開催しました。

尾崎幸氏より「ふるさとの図書館で原画展を開催したい」とお話を頂き、富安氏と出版社担当者様のご協力も得て、麻機分館で開催することになりました。

【銅版画絵本原画の迫力】

期間中、麻機分館・雑誌コーナー前は、繊細な銅版画が紡ぎ出す『おいしいおかゆ』の臨場感溢れる原画を、来館された子どもから大人の皆さんが間近に鑑賞できるギャラリー空間となりました。原画の迫力は、鑑賞する方をグリム童話の世界に引き込むようでした。

今回【麻機分館】に寄贈頂いた絵本と、図書館が所蔵する絵本、合計4冊の絵本には多数の予約が付き、開催期間中の利用回数は合計37回（静岡市立図書館所蔵以降の全体利用に占める今期間中貸出率18.31%）でした。

「この絵はこのページだね」と、原画と絵本を見比べて鑑賞する利用者の姿が印象的でした。

身近な図書館に来館した利用者の皆様が、貴重な絵本原画を鑑賞して頂ける場を設けることが出来た、郷土出身の銅版画家さんによる特別な企画展になりました。

自然豊かな麻機小学校の一角を改装した、小さな麻機分館。ゆっくりと読書を楽しみたい時に、ぜひお越しください。



しずとしよフェスタ 2022
10月23日(日)

2022年のしずとしよフェスタは、静岡市立中央図書館と静岡図書館友の会の共催で10月23日(日)に実施されました。『あいうえあそぼうとしよかんで』（草谷桂子ぶん スギヤマカナヨえ 子どもの未来社）をテーマにスギヤマカナヨ氏講演会 ①）、ワークショップ、『あいうえあそぼうとしよかんで』原画展 ②）、おはなし会 ③）、図書館ツアー ④）、デイジー図書視聴体験 ⑤）、スタンプラリー ⑥）と盛りだくさんの内容で多くの来館者で賑わいました。今号では、静岡市立中央図書館の勝見さん、安藤さん、ワークショップに参加された大石さん（8ページ）にご寄稿いただきました。



①



②



③



④



⑤



⑥

スギヤマカナヨ氏講演会「絵本でひろがる世界」
ワークショップ「すきな本をカルタにしよう」

報告：静岡市立中央図書館 勝見留理・安藤紀子

「好き」の延長に今があるお話に感動しました。カナヨさんは、子どもたちの「好き」も共に味わうワークショップの達人です。読み聞かせでやる気スイッチオンにして、一人ひとりに声をかけながら、好きな本を言葉や絵でカルタにする作業を見守ります。「この工夫、いいね。」と紹介すると、子どもたちは作品も自分も認めてもらえたような表情になり、自然と他の人の発表を聞くようになります。「かけがえのない自分。変わりがない大事な存在。だから自分以外もみんな大事。」と締めくくり、最後は笑顔でお互いに拍手しました。



講演会では、カナヨさんが絵本作家となるまでから、一昨年デビュー30周年を迎えられ、なお精力的にご活躍されている日々のお話をユーモアを交えてお話くださいました。犬の訓練士に憧れた高校時代、図書館で犬についての本をたくさん借りて読み漁りその骨格まで学びデッサンしていたとのこと。その緻密な観察眼は後の作画制作の礎となったのであろうと納得しました。



発表を終えた子たちの誇らしげな顔が、印象的でしたね。カナヨさんは、手にする方々の多様性にも着目し『手で見える学習絵本テルミ』や、ブックスタートの冊子を作られています。様々な角度から本と子どもを繋ぐという姿勢には、私たちも多くを学ばせていただきました。



※新刊『スギヤマカナヨのワークショップ 絵本まるごといただきます〜す!』が2023年1月に発行されました。興味のある方は是非ご覧ください。



カナヨさん、ありがとうございました。



スギヤマカナヨさんのワークショップに参加して

静岡図書館友の会 会員 大石 陽子



スギヤマカナヨさんの「すきな本をカルタにしよう」に参加しました。三人の娘たちはカナヨさんの絵本を読んでいたこともあり楽しみと緊張がありました。カナヨさんはもち前の明るさで「こんにちは!」と笑顔で声を掛けてくださり、娘たちにも自然と笑顔がこぼれ、あたたかい気持ちで迎えることができました。

『あいうえそぼうとしょかんで』の朗読から始まり、カナヨさんのウキウキするような語り口に、子どもも私もいつのまにか引き込まれていました。朗読後のカルタ作りでは、自分のお気に入りの本を持ち寄り、その本の素敵どころや、伝えたいことを絵カードと紹介文にまとめて作ります。子どもたちの完成した作品をカナヨさんは「〇〇がいいね」とひとりひとり誉めてくださり、参加した子どもたちの目が輝いていました。

一つの本をきっかけに、子どもたちは表現する力や楽しさを味わえ、時間に追われる大人も子どもたちと笑ったり考えたりすることができ有意義で楽しいひとときでした。



しずとも情報

- 本年も、しずとしょフェスタ（静岡市立中央図書館と共催）や学習会などを予定しています。日時・詳しい内容は、会報次号、当会ホームページ、チラシなどでお知らせします。どうぞお楽しみに!
- 3月15日に静岡市市長選候補者に公開質問状を提出しました。いただいた回答は、当会ホームページに掲載します。

静岡図書館友の会会報 No.29 2023.4
静岡図書館友の会 代表 田中 文雄
Eメール: sizutomo2008@yahoo.co.jp
HP: <http://shizutomo.sakura.ne.jp/>
会員数: 194人(2023年3月18日現在)

編集後記
春も本番、今年はいよいよマスクを外した生活ができるかなと楽しみにしていたところにこの大量花粉です。まだ本格的に発症はしていないものの、なんとなく目がかゆいような、鼻もグズグズするような……。気のせい、気のせいと、日々やり過ごしています。(Y)